

令和元年度全国普通科高等学校長会 教育課程研究委員会アンケート

◎研究協議主題

「新学習指導要領に向けた教育課程の研究」

○ 研究協議主題に添った3つの柱立て

- ① 「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）」に関する取組と課題
- ② 「英語の4技能の育成と評価」に関する取組と課題
- ③ 「カリキュラムマネジメント」に関する取組と課題

○「高校生のための学びの基礎診断」に関する調査

1	北海道	2	青森	3	岩手	4	宮城	5	秋田
6	山形	7	福島	8	茨城	9	栃木	10	群馬
11	埼玉	12	千葉	13	山梨	14	東京	15	神奈川
16	新潟	17	富山	18	石川	19	福井	20	長野
21	静岡	22	愛知	23	岐阜	24	三重	25	滋賀
26	京都	27	大阪	28	兵庫	29	奈良	30	和歌山
31	鳥取	32	島根	33	岡山	34	広島	35	山口
36	徳島	37	香川	38	愛媛	39	高知	40	福岡
41	佐賀	42	長崎	43	熊本	44	大分	45	宮崎
46	鹿児島	47	沖縄						

各問の回答については、全国高等学校長協会のホームページからダウンロードした「アンケート回答用紙」（エクセルファイル）に入力してください。（注：E-mail 添付ファイルにて回答する前に、調査対象高等学校長あての依頼文に記載した「6 回答の方法」により、ファイル名を変更してください。）また、都道府県番号及び都道府県名は上記の表により、入力してください。

問1と問2は該当する符号を一つ選び、問3～問6の「複数回答可」は回答用紙の該当する符号の箇所（セル）に半角数字の「1」を入力してください。

「その他」の回答や「自由記載」については、回答用紙に文字をご記入ください。

1 学校に関する調査

問1 貴校は、次のうちどれに当てはまりますか。

- (1) 設置者
 - ア 国
 - イ 都道府県
 - ウ 市町村
 - エ 学校法人等（私学）
 - オ その他（ ）

(2) 課程

- ア 全日制普通科
- イ 定時制普通科
- ウ 通信制普通科
- エ 全日制普通科と定時制普通科併設
- オ 全日制普通科と定時制普通科と通信制普通科併設
- カ 全日制普通科と専門学科または総合学科併設
- キ 定時制普通科と専門学科または総合学科併設
- ク その他 ()

問2 本年度の最終学年(年次)での、大学・短大を合わせた進学希望率はどの位ですか。

- ア 90%以上
- イ 70%以上～90%未満
- ウ 50%以上～70%未満
- エ 30%以上～50%未満
- オ 30%未満

2 先進的あるいは特色ある教育課程の実施状況について

問3 「主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)」に関する取組と課題について

(1) 「主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)」について、貴校で工夫していることをお答えください。(複数回答可)

- ア 教育課程編成
- イ 授業展開(特色ある授業等)
- ウ 教員の指導力向上のための教員研修
- エ 教員の指導力向上のための外部人材の活用
- オ 校内組織体制の整備
- カ 施設設備の整備
- キ ICT活用
- ク 評価(授業評価・学習評価等)
- ケ 取組の成果の(都道府県)全体への普及・共有方法
- コ 特に工夫していない
- サ その他(→具体的な取組の内容を(2)でお答えください。)

(2) (1)で回答したそれぞれについて、具体的な取組の内容を該当する符号とともにお答えください。(回答は自由記載)

(3) 「主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)」の取組を実施する上で課題となっていることをお答えください。(回答は自由記載)

問4 「英語の4技能の育成と評価」に関する取組と課題について

(1) 「英語の4技能の育成と評価」に関する取組と課題について、貴校で工夫していることをお答えください。(複数回答可)

- ア 教育課程編成
- イ 授業展開(特色ある授業等)
- ウ 4技能の育成と評価に関する教員研修
- エ 評価(授業評価・学習評価等)

- オ 現在の民間検定試験の利活用
- カ 校内組織体制の整備
- キ 施設設備の整備
- ク 外部機関や大学・事業所等との連携
- ケ 予算編成の工夫等
- コ 取組の成果の（都道府県）全体への普及・共有方法
- サ 特に工夫していない
- シ その他（→具体的な取組の内容を（2）でお答えください。）

(2) (1) で回答したそれぞれについて、具体的な取組の内容を該当する符号とともにお答えください。（回答は自由記載）

(3) 「英語の4技能の育成と評価」の取組を実施する上で課題となっていることをお答えください。（回答は自由記載）

問5 「カリキュラムマネジメント」に関する取組と課題について

(1) 「カリキュラムマネジメント」について、貴校で工夫していることをお答えください。（複数回答可）

- ア 教育課程編成（教科横断的な視点での組織的な配列等）
- イ 授業展開（特色ある授業等）
- ウ 教員の指導力向上のための教員研修
- エ 地域等の外部の人的・物的資源の活用
- オ 校内組織体制の整備
- カ 施設設備の整備
- キ 予算編成の工夫等
- ク 教育課程の編成・実施・評価・改善のPDCAサイクルの確立
- ケ 取組の成果の（都道府県）全体への普及・共有方法
- コ 特に工夫していない
- サ その他（→具体的な取組の内容を（2）でお答えください。）

(2) (1) で回答したそれぞれについて、具体的な取組の内容を該当する符号とともにお答えください。（回答は自由記載）

(3) 「カリキュラムマネジメント」に関する取組を実施する上で課題となっていることをお答えください。（回答は自由記載）

問6 「高校生のための学びの基礎診断」について

(1) 今年度、基礎学力を測定する手立て（ツール）として、貴校で活用あるいは活用予定のものをお答えください。（「キ」以外は複数回答可）

- ア 「基礎診断」認定ツール（義務教育段階の学習定着度測定タイプ）
- イ 「基礎診断」認定ツール（高等学校共通必修科目定着度測定タイプ）
- ウ 国が認定したツール以外の民間のツール
- エ 学校独自の測定ツール
- オ 都道府県等独自の測定ツール

カ その他の測定ツール（ ）

キ 活用しない

(2) (1)において「活用している(ア、イ、ウ、エ、オ、カ)」とお答えいただいた場合のみ、以下の①、②、③にお答えください。

① 貴校で工夫していることをお答えください。(複数回答可)

ア 義務教育段階における学習内容の定着度合いの測定、確実な習得

イ 高校生に求められる基礎学力の定着度合いの測定、確実な習得

ウ 学習意欲の喚起

エ 教員の指導方法の改善

オ その他(→具体的な取組内容を②でお答えください。)

② ①で回答したそれぞれについて、具体的な取組の内容を該当する符号とともに
にお答えください。(回答は自由記載)

③ (1)で活用あるいは活用予定のツールとして選択した理由をお答えください。
複数選択した場合は、主たるツールを一つ選び、その符号とともににお答えください。
(回答は自由記載)

(3) 現時点において、「基礎診断」認定ツール導入の成果について、どのようにお考えですか。

ア 期待できると思う

イ 期待できるとは思えない

ウ どちらともいえない

(4) 来年度以降、「基礎診断」認定ツールを導入する予定について、どのようにお考えですか。

ア 既に導入しており、次年度以降も継続する予定である

イ 次年度以降の導入を予定している

ウ 次年度以降導入するかどうか検討中である

エ 現時点で導入しない予定である

オ 導入するかしないか未定である

カ その他()

(5) 現時点において、「高校生のための学びの基礎診断」やそれに準じる基礎学力を測定するツールの実施時期について、どのようにお考えですか。(複数回答可)

ア 1学年：4月から6月

イ 1学年：7月から9月

ウ 1学年：10月から12月

エ 1学年：1月から3月

オ 2学年：4月から6月

カ 2学年：7月から9月

キ 2学年：10月から12月

ク 2学年：1月から3月

ケ その他()

コ 未定

- (6) 「高校生のための学びの基礎診断」の実施に関する文科省からの情報発信、活用方策、実施上の課題等、様々な観点からご意見をお聞かせください。

(回答は自由記載)

(観点の例：最新情報の周知方策、参加形態、実施会場、都道府県等教育委員会の関与、学校教員の関与する運営内容や負担、業者毎に基本・標準タイプの出題内容・難易度が異なること、記述問題の公正な採点等、情報の管理、結果の利活用方策（生徒・学校・教育委員会等）、結果の副次的利用（就職・進学）の可能性、受験料、地域・経済的事情への対応など)

※ ご協力、誠にありがとうございました。